



光受寺通信

H.27年1月1日 発行
発行者 光受寺
<http://koujyuji.com/>

慶祝新春

本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます



光受寺
住職 柴間邦守



昨年は、私にとつては人生の大きな転機となるような一年でありました。

一昨年には、改修工事に引き続き、念願であった御遠忌までもお勤めさせていただくことができましたが、本年はこれをご縁として、本山奉仕団として上山することもできました。帰敬式を受け、念仏者としての歩みを始められた方も多く誕生いたしました。

誠に有り難く、住職といたしましては、この上ない歡びを受け止めております。

やはりには、新発意としての若院が、次期住職としての歩みを力強く始めていくことを願っております。

一昨年の事から安堵の思いと同時に、心の区切りのもつけられたように思っております。

これからの光受寺を思う時、さらなる開かれた寺として、より積極的「現実社会との関わりを深めながら、生きた間法道場としての歩みが続けられていくように願っております」。門徒皆様のさらなる「理解」と「協力」をお願いいたします。

新年のあいさつ

責任役員 Y T

明けましておめでとうございます。
昨年の暮れには寺の行事の締めくくりとも言つべき報恩講、門徒総会が行われました。あいにくの雪の中、また衆議院解散選挙と、例年にも増して大変あわただしい年の瀬となりましたが、多数の門徒の方にお世話になり、無事勤め終えることができました。

昨年一年を振り返り、私にとつて一番印象に残っているのは、本山奉仕団に参加させていただけたことです。参加するには体の状態が万全でなかった私ではありましたが、押して申し込みをしました。大変不安ではありましたが、参加者の方々の温かい手助けをいただき、無事一泊二日の奉仕活動を終えることができました。ほんとうにありがたいことだったと思っております。今回は思いつくご縁いただくこととなりましたが、縁は自分自身が切り拓くものだと、心掛けて思っております。

今後ますますまな行事を寺で計画されることは思いますが、思い切つて申し込みをされてはいいかかと思っております。少々体が不調であっても必ず誰かが助けてくださる、助け合える、そう思っております。

十一月十四日(日)報恩講勤まる。

とても寒い一日でした。それでも満堂。総会も例年にも増して多くの参加者がありました。

お斎も今年はずべて手作りとなり、お取り持ちの方々には大変なご苦勞をおかけいたしました。おかげさまで「よい報恩講」になったように思います。

如来大悲の恩徳は、身を粉にしても報ずべし、師主知識の恩徳も、骨を砕きても謝すべし。満堂の本堂に、高らかに響き渡りました。



写真提供

M・M様

「おみがき」

昨年の暮れ、ご門徒さんのご有志の方々によつて「おみがき」が行われました。約二十名による二時間ほどの作業でした。



一つ一つしたお一人お一人のご奉仕の心が、報恩講には莊厳となり、尊い輝きとなります。おかげさまでピッカピッカになりました。

光受寺学習会

一月より第二土曜日（七時より八時半）に学習会が始まります。

学習会と言っても、特別な勉強をするわけではありません。法話を聞いたり、DVDを観たり、時々プリントに眼を通したりする中で、仏法に私の生き方を問うていく歩みの集まりなのです。

知識を得るためであれば、一人で本を読めばそれで十分だと思います。

この会は地位も名誉も学歴も知識も男も女も年齢も関係なくただただ生きることの意義を見つめ、ほんとうに幸せに生きられる人生を問うて行く場なのです。

自分を飾ることなく、あからさまにして、見つめ直す場でありたいとの願いをもって開かれているのです。立派な人間になることを目的とはしてはいません。むしろ、愚かな自分を自覚する事に目的があるのかもしれない。

尚この会は光受寺門徒会より毎年一百万円の援助を受けて運営されています。思いついた時には是非お気軽にお出かけください。

会費 ありません。
資料等 光受寺で準備いたします。

※八月、十二月はお休みです。

今年一年の主な行事

一月一日	修正会
一月九日（土）	光受寺懇親会
二月下旬～三月中旬	観梅 写真展等
三月二十一日（土）	春季永代経
四月十日（金）	十日講
九月二十三日（水）	秋季永代経
十二月四日（金）	おみがき
十二月七日（月）	役員会
十二月十一日・十二日	報恩講準備
十二月十三日（日）	報恩講
十二月三十一日	門徒総会 除夜会



ライトアップ



花すだれ？



飛龍梅

梅の開花情報を光受寺のホームページで流しています。

ご来寺いただく場合には、確かめて来ていただくとよいかと思います。

光受寺で検索いただければ、開花情報でご確認いただけます。ライトアップは3月7日（土）

昨年の花の様子です。多くの人に愛でられました。

ちよびんご話

私が「我が抜けな」の私。

ある方が作物を栽培するのにほんの一部をお手伝するにすぎない」との思いをもって、農作業に取り組でいらつしやるのが。

私が、作る、の驕りを捨てて自然のお手伝いこそが、と実感。

そ仏法は働いているのだなく、と実感。

原稿募集しております

ご協力を願っています。

何気ない日常の出来事や、その思い。

趣味や特技どんなことでもお聞かせくださいあればありがたいです。

文章書くことが苦手とおっしゃる方でも、インタビュー形式という方法もございいますので、是非お声掛けの程よろしく願っています。